

ヴァイオリン譜 (凸面)

「諸記号」及び「点訳順序の目安」の点訳法は、ヴィオラ・チェロ・コントラバス譜に共通である。

諸記号

1. 弦記号

五線譜では、弦の指示は音名（E、A、D、G 等）、またはローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）で書かれていることが多い。

	ヴァイオリン	ヴィオラ・チェロ	コントラバス	点字記号
第一弦 I	E	A	G	⠠⠠
第二弦 II	A	D	D	⠠⠠
第三弦 III	D	G	A	⠠⠠
第四弦 IV	G	C	E	⠠⠠

- (1) 弦記号は音符の前に記す。他の記号類との書き順は、p5「点訳順序の目安」参照。
- (2) この記号の次に来る音符に、音列記号は不要。
- (3) 連続(省略)表記ができる。同じ弦の指示が4音以上続く時、始まりの音符の前にこの記号一つと記号の後半を記し、終りの音符の前に記号を一つ記す。(例：第四弦が続く場合 ♯・♯・♯・〜〜〜 ♯・♯)
次の音符に他の弦記号がある場合、止めの弦記号は省略して良い。
- (4) 「sul G」「E string」等、言葉で書かれている時はそのまま記す。
♯・♯・♯・♯・♯・♯ ♯・♯・♯・♯・♯・♯・♯・♯・♯・♯
- (5) ローマ数字による場合の点字表記については p5 の (4) 参照。

2. 弓記号

上げ弓 (V) $\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

下げ弓 (∩) $\begin{smallmatrix} \bullet & \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

- (1) 弓記号は音符の前に記す。書き順は、p5「点訳順序の目安」参照。
- (2) この記号の次に来る音符に、音列記号は不要。
- (3) フレーズスラー記号が使われる時、弓記号は原則その中に記す。
- (4) 同じ弓記号が4音以上続く時、連続（省略）表記の使用もできる。

3. 指記号（左手）

0（開放弦） _____ $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

1 _____ $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

2 _____ $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

3 _____ $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

4 _____ $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$

- (1) 指記号は音符の後に記す。
- (2) 隣りあう音符の指記号間に線が引かれている時、始めの音符の指記号に続けて $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ を記す。
- (3) 指記号の後に長い継続線が続いている場合は、始めの音符の指記号の後に3の点 $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ を記し、終りの音符の指記号の前に6の点 $\begin{smallmatrix} \bullet \\ \bullet & \bullet \end{smallmatrix}$ を記す。

各弦における開放弦の音

	第四弦	第三弦	第二弦	第一弦
ヴァイオリン	0	0	0	0
ヴィオラ				
チェロ				
コントラバス				

5 弦を有するコントラバス 第 5 弦

開放弦はHまたはC

4. ピチカート（五線譜上では pizz. と書かれていることが多い。弓を用いず右手あるいは左手の指で弦をはじいて奏する。）

pizz. ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

+ 左手で奏する場合の記号 ♪ ♪

- (1) + 記号は音符の前に記し、音符には音列記号が必要。
- (2) + 記号が 4 音以上続く時は連続表記ができる。
- (3) + 記号と pizz. が同時に書かれている場合は、+ (左手) 記号、pizz. の順に記す。例： ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪
- (4) ピチカートをあらわす左手記号は和音の基準音に影響しない。

5. アルコ (arco : 弓を使つての意味)

arco 

6. グリッサンド記号

この記号はグリッサンドが記されている二つの音符の始めの音符の後に
 を記す。書き順は、p5「点訳順序の目安」参照。

7. ハーモニックス記号

 or   開放弦以外の音符につく 0 あるいは o は自然的ハーモニックスをあらわす。
 音符の後に記すが、書き順は p5「点訳順序の目安」参照。

  菱形の音符は技巧的または自然的ハーモニックスをあらわす。
 音符の前に記すが音符に音列記号、臨時記号が付くときは、さらにその前に記す。
 連続表記は不可。

8. ポジション記号

I (1st)		VII (7th)	
II (2nd)		VIII (8th)	
III (3rd)		IX (9th)	
IV (4th)		X (10th)	
V (5th)		XI (11th)	
VI (6th)		XII (12th)	

(1) この記号は音符の前に記す。書き順は、p5「点訳順序の目安」参照。

(2) この記号の次に来る音符には、音列記号が必要。

- (3) ポジション記号に続いて継続線がある場合、継続の記号を用いて表す。
開始はポジション記号の後 3 の点を二つ記し、終わりは記号の影響を受ける最後の音符の後に $\therefore$ を記す。
(第 2 ポジションが続く場合の例： $\therefore \therefore \therefore \sim \sim \sim \therefore$)
次の音符に他のポジション記号がある場合、止め記号は省略して良い。
- (4) ローマ数字が弦記号かポジション記号か判別出来ない場合は、ヨ記号を前置しローマ数字をアルファベットとして記して良い。注あるいは凡例が必要。

和音の基準音（原則として）

ヴァイオリン譜	}	最高音
ヴィオラ譜		
チェロ譜	}	最低音
コントラバス譜		

点訳順序の目安

- 1 言葉で表記するもの
- 2 p i z z . a r c o
- 3 強弱記号（*f* *p* 松葉等）
- 4 弦記号、ローマ数字で記された記号
- 5 フレーズスラーの始め
- 6 ポジション記号
- 7 弓記号
- 8 連符記号
- 9 装飾音記号
- 10 奏法記号（アクセント、スタッカート等）
- 11 菱形音符記号（技巧的または自然的ハーモニックス）
- 12 音符
- 13 指記号（開放弦記号）
- 14 自然的ハーモニックス記号
- 15 スラー、タイ記号
- 16 グリッサンド記号

点訳例

譜例中のヴァイオリン譜は、和音の基準音を最高音として記す。

No. 1 弦記号 (繼續)

[illegible]

No. 2 弓記号

a. 上げ弓、下げ弓

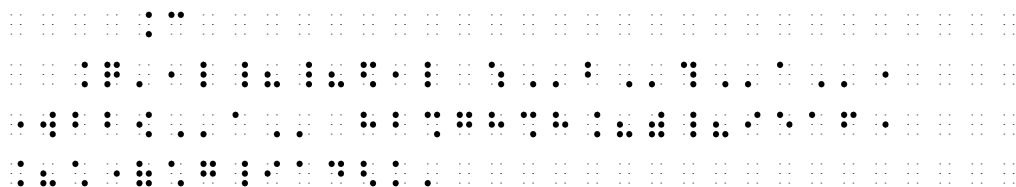
b. 弓記号連続

No. 3 指記号（二通りの指使い、指記号間の線）

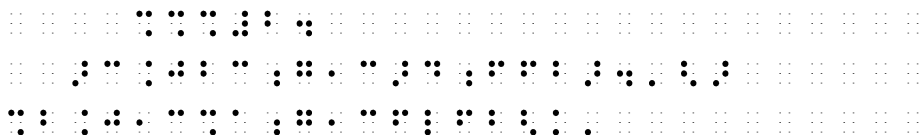
指記号が二通り記されている時は、第1の指に続いて第2の指を書くが、部分的に第2の指使いのみになっている場合、また弓、弦記号などが記されている場合は、何らかの方法（カッコを使う、部分け記号を使う等）で書き分ける。

どのように書き分けたかを凡例、あるいは点訳者注で説明する。

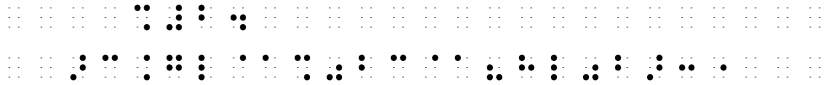
a. 部分的に第2の指使いになっている場合



b. 弦記号を伴う場合

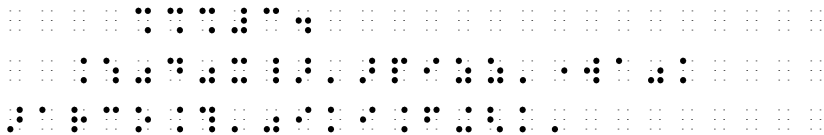


c. 隣りあった音符の指記号と指記号を結ぶ線

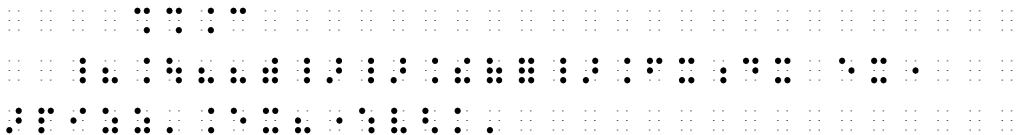


No. 4 ピチカート

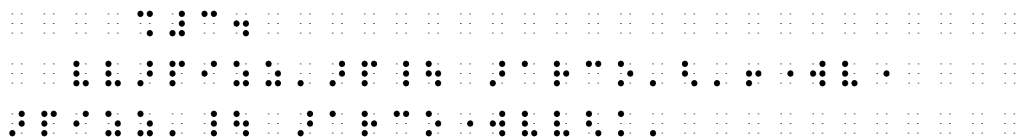
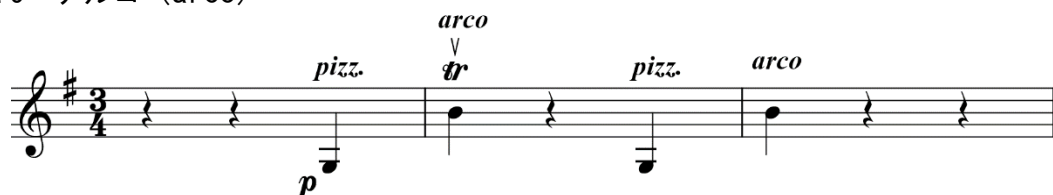
a. 左手のピチカート



b. 左手のピチカート連続、右手のピチカート



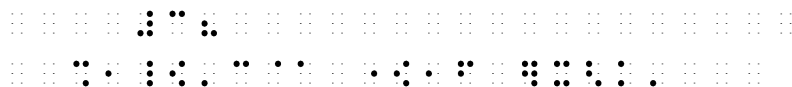
No. 5 アルコ (arco)



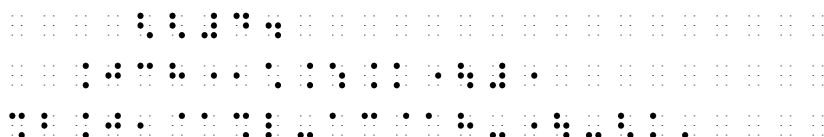
No. 6 グリッサンド記号、斜線

a. スラーとグリッサンド記号 (斜線)

(斜線はグリッサンド、あるいは新しいポジションへの移動を示している)



b. 各々の音に弦記号が記された和音と隣の和音を結ぶ斜線



No. 7 ハーモニックス

a. 自然的ハーモニックスと開放弦

①

②

b. 菱形音符

①

②

③

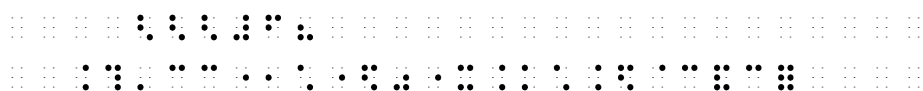
c. 実音が示されているハーモニックス

①

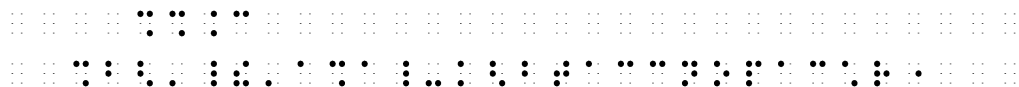
②

その他の譜例

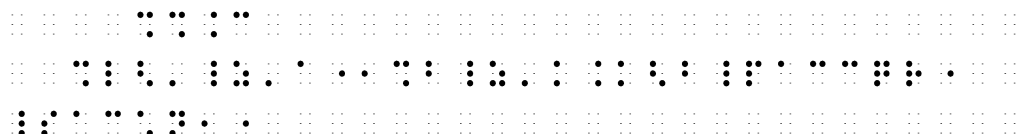
a. 音価の異なる和音



b. 2本の弦を同時に奏する場合（チェロ譜）



c. 二通りの弦で奏する場合（チェロ譜）



付記

本資料は、日本点字図書館発行「楽譜点訳の基礎」（現在絶版）から『弦楽器に使われる諸記号とその書き方』の部分を基に、譜例および当会独自の表記も加え作成したものです。また、下記の出版書も参考にしました。

- ・「新国際点字楽譜表記解説」（1996 年発行）
- ・新総合音楽講座 8「管弦楽法概論*」（財団法人ヤマハ音楽振興会発行）

* 開放弦、ハーモニックスに関する箇所。